

文化の秋 多久の文化を発信

第8回多久市文化祭り

▶市民劇場「父帰る」



第8回多久市文化祭りが11月17・18日、多久市中央公民館で開かれました。展示発表会では、美術協会による絵画・工芸・写真・書道の展示、華道会3流派による華やかな作品の展示に加え、北部小なかよしくラブの3年生10人による生け花の展示もありました。この他にも茶道会によるお茶お点前、俳句・川柳・短歌など文芸協会による作品、編物やパッチワークなどの服飾手芸文化の会の作品と、多久市の芸術文化の集大成が展示されました。

18日の芸能発表は、日舞、民謡、市民劇場と大ホールいっぱいのお客と熱演で盛り上がりました。今年の市民劇場は作家菊池寛の「父帰る」。出演者に多久ミュージカルカンパニーの子どもたちも加わり、笑いあり、涙ありの見ごたえある名作劇でした。



◀服飾手芸文化の会は、染色・編物・パッチワーク・七宝焼と中央公民館で開催している教室の作品を展示

西溪公園・多久聖廟色鮮やかに もみじと音楽で癒しの時間を

孔子の里・多久 紅葉まつり

もみじや楷樹が色鮮やかに紅葉した西溪公園・多久聖廟で、11月15日から25日まで紅葉まつりが開催されました。今年は、昨年より早く紅葉し、まつり初日から多くの方が紅葉狩を楽しんでいました。

11月15日にはオープニングセレモニーが行われ、多久市観光協会野中保岡会長は「今年は色づきにちょうど良い気候で、すばらしい紅葉を見ることができます。催しも準備していますのでこちらも楽しんでください」とあいさつ。まつり期間中は、日替わりの音楽イベントや利き酒大会、みかん大食い大会など多数のイベントで賑わいました。

また、寒鷺亭も無料開放され、買い物をしたり、音楽が流れる中、お茶を飲みながらもみじを觀賞する人の姿も見られました。



▲西溪公園で紅葉狩を楽しむ団体客

東部小5年生チューリップの球根植え

11/15

JR東多久駅で、東部小5年生36人とJR九州鉄道OB会のみなさんが構内やふれあい花壇にチューリップの球根約1,000個の植え付けを行いました。



東部小5年生は総合的な学習の一環で、夏はひまわりの種、秋はチューリップの球根植えに取り組んでいます。

JR九州OB会メンバーで東多久駅名誉駅長の渋谷初實さんは、「何事も経験が大切です。活動を通して社会に奉仕の精神を持ってください。また、あいさつ運動にも取り組みましょう」と児童へ奉仕の精神の大切さを伝えました。

障害者スポーツ大会で交流を深める

11/11

第49回多久市障害者スポーツ大会が体育センターで開かれ、約120人が競技を楽しみ、交流を深めました。



今回は、多久市身体障害者福祉協会(会長 陣内和博)、しみず園(園長 河野良治)の2団体が4チームに分かれて競技。参加者は、ニュースポーツのバッコ競技やディスクゴルフなどに挑戦しました。パン食い競争や玉入れ、風船割りなどの得点競技では歓声や笑顔で盛り上がり、和やかな大会になりました。